



清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

感謝のステージ

新年あけましておめでとうございます。

子供たちとご家庭及び地域の皆様にとって、令和7年がすてきな1年になることを祈ると共に、清水小学校がその役割の一部を担えるよう、職員一同、気持ちを新たに教育活動に取り組んでまいります。

さて、今年の干支はへびですが、漢字で巳と表すのは、干支はもともと中国の暦をルーツにしている、干支に動物を当てたのは覚えやすいようにするためと言われています。巳は、植物が限界まで成長し、新たな種子を宿す状態とされており、そのことから新生や再生の象徴とも解釈されています。社会がとてつもないスピードで変化する現代です。学校も、社会の変化に対応したバージョンアップが求められていることを常に意識していきます。

一方で、1月から3月は、本年度のまとめの時期でもあります。学校では、この期間を「感謝のステージ」と位置付け、子供たち一人一人の振り返りを大切にしたい教育活動を行います。自分を支える人たちへの感謝の気持ちを育むことは、社会の一員として生活する上で大切な資質の一つです。加えて、他者との関係性を通して、自分の成長を確かめることは、自己有用感（自分は誰かにとって大切な存在であるという認識）や、自己肯定感（自分らしくあることを大切にしたいという認識）を高めるためにもとても大切なことです。特に学齢期にしっかりと周りの人達への感謝の気持ちをもつことは、その子自身のキャリア形成（こういう人になりたい、こういうふうになりたいという認識）をととても豊かにしていきます。ご家庭でも、令和6年度を振り返り、お子さんの成長を共に喜びながら、そこに関わった人たちのことを話題にする機会を増やしていただけたらと思います。

校長 武藤 剛

大盛況だった「いずみっこチャレンジ」から考える ～非日常を味わう「催し」の大切さ～

12月に実施した学校評価アンケート(御協力ありがとうございました)に、こんなものがありました。

子どもが、いずみっこチャレンジをととても楽しみにしています。自分たちの知らない学校の一面を見られるのはとても良い企画だと思います。

PTA 総務部の皆さんを中心に準備・運営をした本イベント、延べ500人以上の申込みがありました。これほど大人気だった理由は、まさに「自分たちの知らない学校の一面＝非日常」が体験できることにあったと思います。



(毎度毎度、オランダの話で恐縮ですが)自分が勤務した日本人学校では、12月初旬の聖ニコラス祭(オランダ版のクリスマス)に合わせて、担任が教室の中をゴチャゴチャに散らかし(聖ニコラスの従者・いたずら好きのピートの仕業という設定です)【写真】、朝登校してきた子供たちは、その中からプレゼントを探し出すという季節のイベントがありました。

また、その日本人学校と校舎を共有していたインターナショナル・スクールでは、「パジャマ・デー」といって、パジャマで学校に登校して一日過ごすという楽しそうなイベントをしていたことも思い出します。

このような非日常のイベント(催し)は、学校生活にスパイスや彩りを与えてくれます。同じ学校評価アンケートに「くすのきの、焼き芋が楽しそうだったので他のクラスでもやってもらえたらなあと思いました」という御意見もありました。日々の授業(学習)は、もちろん大切です、時間的な余裕が、なかなか無いのが今の学校ですが、もっと、こうした非日常を味わえる催しができるような心と時間の余裕があればいいのになと、つつい思ってしまう。

BOOK TALK 学校(教師)は接客業なのか? ～斎藤浩『教師という接客業』を読んで～

前頁で「已は新生・再生の象徴、時代に合わせ学校もバージョンアップが必要」という話題がありました。

冬休みに『教師という接客業』という、現職の教師が書いた本を読みました。この本は、教師(学校)が接客業化し、「顧客」と位置付けられる児童や保護者の要望に応えようとしすぎるあまり、学校(教師)が没個性化し、波風の立たない無難な対応ばかりとるようになることに警鐘を鳴らすものでした。全てではありませんが、うなずける内容がたくさんありました。

変化や他と違うことをあまり好まず同調性も強い日本の社会では、新生やバージョンアップには、多くの労力と時間が必要です。ですから、今までと同じことをしていた方が波風も立たず、「楽」なことも事実です。これは好みや価値観にも、よりますが、自分は「人と違って、なんぼ」的な考え方が好きなため、以前にも書いたかもしれませんが、「違っているからこそ面白い、存在価値がある」と思うのです。学校や学級も然り、そして教師も然りです。

教師になって初めて書いた学級だよりに「教師はサービス業ですから、何でも言ってください」的なこと書いた記憶がありますが、今は、少し違います。「教師(学校)は、保護者と協働して、子供たちの未来を考えて伴走する存在」そんな風に、今は考えています。本年も引き続き、よろしく願いいたします。